

科目名	情報システム学入門		
担当講師	宮川裕之		
分類	必修		
時間数	7.5		
学習形態	オンラインリアルタイム		
授業の概要	<p>本科目は、組織や社会における「情報システム」を単なる技術装置ではなく、人・情報・判断・価値が相互に関係しながら機能する“構造”として捉えるための導入科目です。DXが進む現代において、真に価値を生み出す情報システムとは何かを理解し、業務や組織の仕組みを「構造的に見直す」視点を身につけます。受講者は、目的・構成・情報・判断・価値の5つの観点から自らの業務や組織を分析し、「構造を描く力」を習得します。</p>		
特色とメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術知識に依存せず、「構造で考える」基礎思考を身につける。</li> <li>・DXを「仕組みの再設計」として理解し、業務改革や組織改善につなげる。</li> <li>・次科目「情報×経営による価値創造デザイン」への橋渡しとなる“構造思考の入口”を提供する。</li> </ul>		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXを「人と仕組みの再設計」として説明できる。</li> <li>・業務や組織の仕組みを5観点（目的・構成・情報・判断・価値）で整理できる。</li> <li>・自職場における「構造のズレ」を発見・可視化できる。</li> <li>・構造思考を活用して、業務や組織改善の方向性を示せる。</li> </ul>		
内容	回	主題	内容概要
	第1回	DXとは構造の変革である	DXの本質を「人と仕組みの再設計」として理解する
	第2回	業務を“構造”として描く	5つの観点で業務を構造的に捉える演習
	第3回	構造のズレを見抜く	目的・情報・判断のズレを分析し、課題を構造化する
	第4回	構造を可視化する	ユースケースやDFDなどのモデル表現を体験的に学ぶ
	第5回	構造の再設計と応用	構造思考をもとに再設計の方向性をまとめるとともに再設計の方向性をまとめる
受講の前提条件	システム開発経験や情報系の専門知識は不要。自らの業務や組織を題材に、構造的に考える意欲を持つ社会人を対象とする。		
事前学習	配布資料を通読し、授業で扱う5観点（目的・構成・情報・判断・価値）を自分の職場に当てはめて考えておく。		
事後学習	授業内容を踏まえ、自職場で「構造のズレ」を感じる具体的な事例を300字程度で整理する。（詳細は授業の中で指示）		
参考文献・オンライン科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦昭二、細野公男、神沼靖子、宮川裕之、『情報システム学へのいざない一人間活動と情報技術の調和を求めて』、培風館、1998、ISBN-13:978-4563014025</li> <li>・ISディジタル辞典-重要用語の基礎知識-第二版、情報処理学会 情報システムと社会環境研究会編、<a href="https://ipsj-is.jp/isdic/">https://ipsj-is.jp/isdic/</a></li> </ul>		